

2023年12月20日 貨物鉄道輸送150年記念セミナー
2050年の日本を支える貨物鉄道の挑戦

～もっと、地球と地域のために～

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、ご多用の中、大変多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、昨年は1872年(明治5年)10月14日に日本初の鉄道が開業して旅客輸送を開始してから150年を迎え、当研究所では、昨年9月21日に、JR東日本と共催で記念セミナーを開催し、斉藤鉄夫国土交通大臣をはじめ大変多くの皆様にご参加いただきました。

一方、貨物鉄道輸送については、鉄道開業の翌年1873年(明治6年)9月15日に、新橋～横浜間において貨物列車の運行が開始されたのがその始まりで、今年で150年を迎えました。本セミナーは、この節目の年を記念して、JR貨物と当研究所との共催で実施するものです。

150年に及ぶ長い歴史の中で、貨物鉄道輸送は海運とともに、我が国の物流の担い手として、経済・社会の発展と国民生活の安定・向上に大きく貢献してきました。

しかしながら、昭和40年代から急速に進展したモータリゼーションによるトラック輸送の増加は、我が国の貨物輸送構造に大きな変化をもたらし、1970年(昭和45年)をピークとして、1980年代半ばまで貨物鉄道輸送の輸送量は年々大幅に減少していくこととなりました。

その後、1987年に国鉄の分割民営化が行われ、貨物鉄道輸送に

については、全国一元的に貨物鉄道事業を運営できる独立した事業体として JR 貨物が設立され、以来今日まで、JR 貨物が我が国における全国一元的な貨物鉄道輸送サービスを担ってきたことは、皆さまよくご承知のとおりであります。

発足後数年は順調に推移した JR 貨物の経営は、7年目から3年連続で赤字を計上することとなり、このような事態を受けて、JR 貨物が発足して10年目の1996年（平成8年）10月に、JR 貨物の完全民営化に向けた道筋を明らかにすることを目的として、JR 貨物及び JR 本州3社の社長、通運及びトラックの代表、荷主及び金融機関の代表、有識者から成る、「JR 貨物の完全民営化のための基本問題懇談会」が設置されました。

私は、当時運輸省鉄道局の課長として、その事務局を務めることとなりましたが、この懇談会では、ワーキンググループを含め、8か月間で実に19回に及ぶ侃侃諤諤の議論を行いました。その結果、翌1997年（平成9年）6月に、「当懇談会としては、JR 貨物の完全民営化が一日も早く実現されることを心から願っている」という一文を最後に置いた意見書を取りまとめ、古賀誠運輸大臣（当時）に提出したことを今でも鮮明に覚えています。

残念ながら、JR 貨物はその後しばらく赤字経営を続ける結果となり、またその後の諸般の事情により、未だ国鉄改革の最終目標である完全民営化には至っておりませんが、私としては、いずれ遠くない日に、堂々たる経営実績を携えて、JR 貨物が完全な民間物流事業者として活躍する日を期待したいと思います。

さて、昨今、物流を取り巻く環境は大きく変化しており、従来からのトラックドライバーの担い手不足に追い打ちをかけるように、いわゆる「2024 年問題」に直面しています。さらに、2050 年カーボンニュート

ラルの実現に向けた取組の加速も求められており、内航輸送への期待と共に、労働生産性と環境特性に優れた貨物鉄道輸送への期待も高まっています。

本日のセミナーのタイトルにありますように 2050 年に向けて「もっと、地球と地域のために」、JR 貨物に代表される日本の貨物鉄道輸送が戦略的な輸送モードとして進化・発展することを期待しています。

さて、本日のセミナーでは、我が国の貨物鉄道輸送がこれまで歩んできた歴史と果たしてきた役割を振り返りつつ、欧州における貨物鉄道輸送を巡る動向にも目を向け、中長期的な視点で我が国の貨物鉄道輸送の今後の展望について考えていきたいと思えます。

まず始めに、敬愛大学の根本敏則教授より基調講演をいただきます。

続いて、一橋大学大学院の坪山雄樹准教授及び一般財団法人交通経済研究所の土方まりこ主任研究員から講演をいただきます。

その後、東京女子大学の二村真理子教授にコーディネーターになっていただき、パネリストとして、根本様、坪山様、土方様に加え、株式会社フレームワークスの秋葉淳一様、JR 貨物の篠部武嗣様にご登壇いただき、パネルディスカッションを行います。

本日のセミナーが、ご参加いただいております多くの皆様方にとりまして有益な示唆に富んだものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

(以上)